第9回留学報告書

五十嵐祐花

2024/08/17

報告書の提出が遅れてしまい、申し訳ございませんでした。夏の間は論文の締め切り、引っ越し、旅行などで慌ただしく、報告書をじっくり書ける時間を確保するのが難しい状況でした。先週からUniversity of Washingtonにお邪魔しており、現在、この報告書はシアトルから書いています。おかげさまで充実した半年間を過ごすことができましたので、順を追ってご報告させていただきます。

シアトルに来て早速Mt. Rainerに行きました！おすすめです

PhDを始めてからメインプロジェクトとして継続的にExoという言語の研究・開発に取り組んできました。長年携わっているプロジェクトのため、ユーザーやコミュニティでの認知度も徐々に上がってきていることを実感しています。 Exoに関連する研究の一つとして、scheduling language designについての論文を6月にASPLOSに投稿しました。この論文は2年近く取り組んできたものなので、採択されることを願っています。 私のPhDの業績とその後のキャリアの選択肢は、Exoと一心同体ということを、ことあるごとに感じています。卒業までは引き続きExoを中心に研究を進めていく予定です。

Exoに関連する別のプロジェクトとして、一月頃からExoの静的解析を改善する研究をしています。2年近く、先に述べた「scheduling languageとは何か」のような事を哲学的に考える研究をして良い経験になりましたが、ゼロからストーリーを構築して論文を書くのが本当に大変だったので、次のプロジェクトはもう少しテクニカルで分かりやすいことをやりたくてこのテーマを選びました。非常に数学ヘビーな分野で、私の指導教員はあまり詳しくないため、2人目の指導教員のような存在であるUniversity of Washingtonの教授のところに8月中滞在し、研究を進めています。

CMUを七月に
訪問した際、共著者と

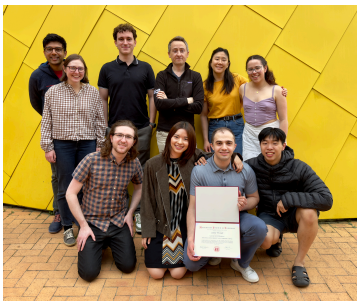
サイドプロジェクトとして取り組んできたCMUの共著者とのmachine knittingの研究については、5月にSIGGRAPH Asiaに投稿した論文が採択されました。このプロジェクトはPhD入学時から始めて約4年間続けてきたコラボレーションで、昨年のSIGGRAPHの論文と合わせて計2本の論文を発表することができ、共同研究としては上手くいった方だと思います。 この研究は大変で時間も取られましたが、やって良かったと感じています。この研究が一区切りついたことで、メインプロジェクトであるExoに集中できるようになり、ホッとしています。

私が面倒を見ていた修士の学生（前回の報告書にも様子が載っています）が二人とも卒業しました。彼らは私が始めて指導した学生で、Exoの開発にも大きく貢献してくれてとても助かっていましたし、仲が良かったので寂しいです。しかし、ゆっくり寂しがってもいられず、新しいPhD学生一人、修士の学生が二人秋からExoに加わります。チームが大きくなるのは嬉しい事ですが、その分プレッシャーも感じます。

ラボの旅行でスキーに行きました

修士の学生がStanford
PhDに合格しました！

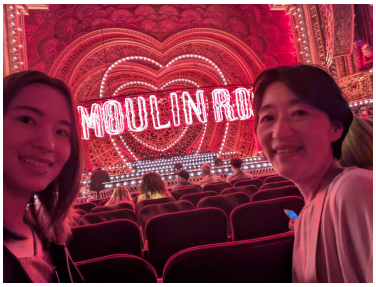
Grad galaにラボメイト
といきました



卒業をラボの皆で祝いました

私は卒業後はアメリカのアカデミアに残りたいなと思っています。アカデミア就活は大体、12月に書類締め切りがあり2,3月に面接、4月に結果が出ます。今年はまだ業績が足りないので出さないですが、もし上手くいけば来年出せたらいいなと思っています。そのために、最近は業績作りとネットワーキングのために色々なワークショップ、フェローシップや賞に応募しています。ここ最近だとML and Systems rising stars, EECS rising stars, Quad fellowshipを頂きました。色々なものに応募す

るのもアカデミアの宿命なのかなと思っています。学外でのトークや査読なども少しはやっていましたが、これからもっと増やさないとなと思っています。



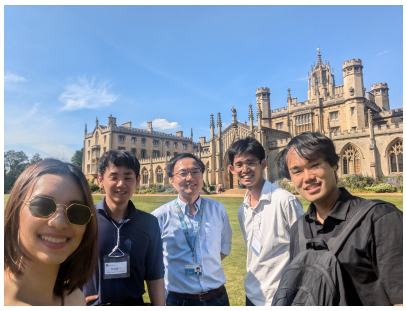
母親が七月に来てくれ、一緒にニューヨークに滞在しました。

弟と従兄弟も二月に来ました。

サンフランシスコに住んでいる友達とWaymoに乗りました。

Yaleの友達の卒業式に行きました。

研究面でも、指導教員との関係的にも、私生活的にもアメリカ暮らしに慣れてきて、PhDの楽しさが日々単調増加しています。自分で言うのも変ですが、シニアPhD学生の貫禄が出てきたんだろうなと感じています。アメリカに来たばかりの時は「研究上手くいかなかったらどうしよう、論文落ちたらどうしよう、英語下手で馬鹿にされたらどうしよう、指導教員と上手くいかなかったらどうしよう、、」等々、色々気にして張り詰めていたような気がしますが、今となっては研究でも私生活でも「私はこうするけどなんか文句ある？」という図太い態度になってきて、本当にストレスなく自分らしく過ごせている気がします。他人のことをそこまでとやかく言わないのはアメリカのいい所ですし、何よりも船井財団を始めとする友達のおかげで楽しく、充実した日々を過ごせていると思っています。



今年の夏の交流会！

交流会の前に、CERN時代の友達に会いました

交流会後に勝山くんと柳くんとロンドンに行きました！

交流会後にパリに行き、
オリンピックを見ました

東大出身でパリ在住の方々が
集まってくれました

ご飯が本当に美味しい....

結びになりますが、留学を実現するチャンスを与えてくださった船井情報科学振興財団の皆様に誠に感謝いたします。この場をお借りして、深くお礼申し上げます。